

第2学年 国語科学習指導案

指導期間	平成17年9月1日～9月21日
指導学級	水沢市立常盤小学校2年1学級 男17名 女20名 計37名
指導者	早川 真美（長期研修生）

1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう 「サンゴの海の生きものたち」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。」と、「B書くこと」の指導事項「イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」を受けて設定したものであり、海の生き物たちのかかわり合いを読み取る過程において予想外の新しい発見をさせることにより、説明文を読む喜びを実感させることをねらいとしている。

教材「サンゴの海の生きものたち」は、海にすむ生き物たちの共生について書かれた文章である。イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚の二つの共生について述べられている。これらサンゴの海にすむ生き物たちを自然の中で目にしたことのある児童は、ほとんどいないと思われる。しかし、水族館や図鑑などで見たことのある児童はいるはずである。また、近年、海の生き物たちを題材としたアニメーションや映画も公開され、親しみをもって見ている児童も多い。従って、本教材は、児童の日常から離れた世界のことではあるが、多くの児童が関心をもって読み進めていけるものと考えられる。

本教材は、児童がこれまで読んできた説明文に比べ、登場する生き物が多く、生き物同士の関係もやや入り組んでいるので、説明が幾分複雑になっている。また、写真には写っていない生き物についても書かれているため、説明の中心的な事柄を見失う児童が出てくるおそれがある。従って本教材を読み進める上で、児童は、何という生き物について書かれているのか、それは、どの生き物なのか、どんな行動をするのかを、写真と文章を関連させながら考える必要がある。また、各頁に示されている写真も美しく、関わり合いの様子が鮮明に写し出されている。これらは、情報補足として重要な役割を果たすとともに、児童の興味、関心を引きつけ、学習への意欲を高めるものであると考える。以上の点から、本教材は、単元の目標を達成するためにふさわしい教材であると考えられる。

(2) 児童について

事前に行った、文章と挿し絵や写真を関連させながら読むことに関する実態調査では、97.1%の児童が、挿し絵や写真を意識して文章を読んでいることが分かった。しかし、その中の23.5%の児童は、挿し絵や写真は見ているが、文章と比べながら見ていないことが分かった。また、叙述に即して事柄の順序や場面の様子をとらえることに関する事前テストでは、文章を読んで生き物の体の特徴を正しくとらえられない児童が35.1%、行動の順序を正しくとらえられない児童が43.2%いることが分かった。従って、叙述に即して書かれている内容を読み取る学習では、挿し

絵や写真が文章と同じ内容を示していることを押さえ、それらを関連させながら読み取りを進める手だての工夫をする必要があると考える。

(3) 指導について

本単元の指導に当たっては、まず、第2段落とリード文から、読みのめあてに気付かせ、児童にこの教材で何を学習するのかをつかませる。さらに、学習のまとめとして、さまざまな生き物について調べ、初めて知ったことや不思議だなと思ったことを書いて図鑑を作り、1年生に教えようと呼びかけ、児童に本単元の学習全体の見通しをもたせる。

書かれている内容を読み取る学習においては、生き物たちの体の特徴や関わり合いを叙述に即して読み取ることができるようにするために、挿し絵や写真と叙述をつなぐ「イメージ構成シート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導を行う。「イメージ構成シート」は、言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら事柄の順序や場面の様子を整理することで、読み取る場面の内容を明確に思い描けるようにするために考えたものであり、事柄の順序をとらえる 場面の様子をとらえる 読み取った内容を叙述に基づいて確認する、の三つの役割をもっている。この「イメージ構成シート」を活用した学習活動を一単位時間の三つの段階(事柄の順序をとらえる段階、場面の様子をとらえる段階、読み取った内容を確認する段階)に位置づけて読み取りを進める。ここでは、叙述に即した読み取りをするために、言葉や文にサイドラインを引かせ、それを根拠にして考えさせたり、想像させたりする。また、話し合いや、「イメージ構成シート」へ書き込む活動をとおして読み取った内容が叙述に即したものであるかを確認させ、必要に応じて、補足、修正させるようにする。

さらに、この学習のまとめとして、1年生に生き物の体や暮らしについて教える「生き物図鑑」を作る活動を行う。「サンゴの海の生きものたち」の学習で得た新たな視点で、他の生き物たちに目を向けることができるとともに、「他の生き物のことも知りたい」「他にも関わり合っている生き物はいるのかな」など、以後の読書や学習につながる活動となるようにしたい。

3 単元の目標

(1) 目標

海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味を持つ。

いろいろな海の生き物について調べ、生き物カードを作って1年生に教える。

(2) 観点別目標

< 関心・意欲・態度 >

・海の生き物の共生関係や、説明文の組み立てに興味をもって読もうとしている。

< 読む >

・「サンゴの海の生きものたち」が互いに役に立っていることを、事柄の順序を考え、場面の様子を思い描きながら読む。

< 書く >

・図書館などの本を読んで、1年生に生き物の体や暮らしについて2～3文で教える「生き物図鑑」を作る。

4 指導要領との関連

	書 く	読 む
目 標	(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。
内 容	ア 相手や目的を考えながら書くこと。	ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。 イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。

5 指導計画（11時間扱い）

次 時	学習指導目標	学 習 活 動	イメージ構成シートの活用
1	1 範読を聞き、初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことについて書くことができる	海の中のイメージを広げる ・拡大した写真から、海の中のイメージをもつ 範読を聞き、感想を書く 学習のめあてをもつ ・単元名とリード文に着目し、めあてを把握する ・「海の生き物図鑑」を作ることを知る	イメージ構成シートの活用
	2 文章を意味段落に分け、学習の見通しをもつことができる	写真を文章に書かれている順に並べる ・文章全体の大まかな流れをとらえる 文章を意味段落に分ける ・写真と学習のめあてを手がかりに、文章を意味段落に分ける	
2	3 生き物たちの体の仕組みや、かかわり合いを読み取ることができる 4 6	読み取る事柄を確認する ・写真と学習課題から、何について読み取っていくのかを把握する	事柄の順序をとらえる ・写真と文章から確認した主要なものを記入させる
		書かれている内容を読み取る ・学習課題にかかわる言葉や文に着目し、写真と関連させながら書かれている内容を読み取る	場面の様子をとらえる ・あたまたのテレビに、読み取り、思い描いたことを言葉や絵、吹き出しなどで書き込ませる
		正しい読み取りを確認する ・読み取ったことを動作化し、話し合うことで、正しい読み取りを確認する	叙述に即してイメージする ・あたまたのテレビに書いたことを基に、動作化させる

				・動作化や話し合いで確認したことを基に、自分の読み取り（あたまのテレビ）を見直し、必要に応じて補足、修正させる
2	5 ・ 7	読み取ったかかわり合い ・ を文章に書いてまとめる ことができる	読み取ったかかわり合いの様子を思い出して整理する ・写真を基に、思い出す ・かかわり合いを表す言葉や文に、注目する かかわり合いの様子を文章に書いてまとめる	
3	8	生き物図鑑の内容を知り視点をもって本を読むことができる	教科書で学習した海の生き物について振り返る 生き物図鑑に書くことを知り、本を読むときの視点をつかむ ・生き物の体や暮らしのことについて教えることを知る ・教科書P77を参考にして、生き物図鑑のイメージをもつ 本を読み、どんな種類の生き物について教えるかを決める ・動物 ・鳥 ・虫 ・海や川の生き物	
	9	生き物についての本を読み、1年生に教えたい生き物を決めることができる	自分が決めた種類の生き物についての本を読む 1年生に教えたい生き物を決め、発表する	
	10	生き物について1年生に教えたいことを書くことができる	1年生に教えたいことを決める 教えたいことを2～3文で書く 隣同士で読み合い、見直す	
	11	生き物について1年生に教えたいことを絵と文でまとめることができる	下書きを読み、教えたいことを確認する 教えたい生き物について絵と文で書く グループで発表し合う 本単元の学習を振り返る	

なお、3 / 11時間、4 / 11時間、6 / 11時間は、「イメージ構成シート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導を行う。

6 指導展開案 (3 / 11時間)

(1)目 標 イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを読み取り、それぞれの体の秘密を教える吹き出しを書くことができる。

(2)評価規準

評価場面	評価規準	具体の評価規準		Cの児童への支援
		A	B	
イソギンチャクとクマノミのそれぞれの体の仕組みについて教える内容の吹き出しを書く (イメージ構成シート)	イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを正しく読み取り、それぞれの体の仕組みを教える吹き出しを書いている(読む)	Bの内容に加えて、小さな動物を捕まえることや、イソギンチャクに刺されないことを記述している	イソギンチャクの触手には毒の針があることと、クマノミの体はねばねばした液で覆われていることを記述している	あたまのテレビの挿し絵を見直させ、言葉や文から確認させる

(3)展 開 (3 / 11 時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (イメージ構成シートの活用)
導 入 (5)	1 本時の学習課題を確認する 生きものたち(イソギンチャクとクマノミ)の「体はかせ」になろう。 ・写真から、イソギンチャクとクマノミについて書かれていることに気付く	
展 開 (35)	2 学習の見通しをもつ (1) 学習場面を音読する (2) 3段落の言葉や文を根拠に、場面の主要なものであるイソギンチャクとクマノミを確認する ・細長いたくさんのしよく手(イソギンチャク) ・きれいなオレンジ色(クマノミ) ・しよく手の間に(クマノミ)	・3段落、4段落ともに、イソギンチャク、クマノミの順で書かれていることを確認して書き込み、イソギンチャクの体、クマノミの体の順で読み取っていくことをおさえる ・挿し絵のクマノミにオレンジ色を塗らせる
	3 イソギンチャクとクマノミの体の特徴を、読み取る (1) 4段落で課題にかかわる言葉や文にサイドラインを引き、発表する ・どくのはり ・ねばねばしたえきでおおわれています (2) 体の特徴について話し合う (3) 読み取ったことを、あたまのテレビに書き込む 4 正しい読み取りを確認する (1) イソギンチャクとクマノミになって動作化をし、お互いの特徴を教え合う (2) 動作化について、言葉や文と関連させて話し合う (3) 自分の読み取りを見直す 5 本時のまとめをする (1) まとめを書く (2) 学習場面を音読する	・毒の針と、ねばねばした液を挿し絵に書き込ませる ・それぞれの体の特徴を教える吹き出しを、書かせる ・読み取った、立つ位置(写真・しよく手の間に)、教える順序(書かれている順序)、教える内容(どくのはり・ねばねばしたえき)に気をつけて動作化させ、話し合わせる ・自分のあたまのテレビを見直し、必要に応じて補足、修正させる ・イソギンチャクとクマノミの体の特徴についてまとめを書かせる
終 末 (5)	6 本時の学習を振り返る	

7 指導展開案 (4 / 11時間)

(1)目 標 大きな魚や小さな魚から守り合っているイソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、それぞれの立場から吹き出しを書くことができる。

(2)評価規準

評価場面	評価規準	具体の評価規準		Cの児童への支援
		A	B	
イソギンチャクとクマノミのそれぞれの立場からの吹き出しを書く (イメージ構成シート)	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、それぞれの立場からの吹き出しを書いている(読む)	Bの内容に加えて、自分の思いや考えも含めて吹き出しに記述している	言葉や文を根拠に、追い払う言葉と、守られていることが分かる言葉を記述している	あたまのテレビの挿し絵を見直させ、言葉や文から確認させる

(3)展 開 (4 / 11時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (イメージ構成シートの活用)
導 入 (5)	1 本時の学習課題を確認する 生きものたち(イソギンチャクとクマノミ)の「かかわり合いはかせ」になろう。 ・写真から、イソギンチャクとクマノミについて書かれていることを確認する	
展 開	2 学習の見通しをもつ (1) 学習場面を音読する (2) 場面の主要なものであるイソギンチャクとクマノミを確認し、読み取る事柄の順序をとらえる	・5段落、6段落の言葉や文から、クマノミの敵が来たとき、イソギンチャクの敵が来たときの順でかかわり合いを読み取っていくことを確認し、クマノミ、イソギンチャクと書き込む
(35)	3 イソギンチャクとクマノミの守り合っている関係を読み取る (1) 5段落から、クマノミがイソギンチャクに守られていることを読み取る ・イソギンチャクをこわがって、近づいてきません(大きな魚) ・クマノミはあんぜん ・この魚が近づいてくると(小さな魚) ・カチカチ ・おいはらってしまいます (2) 6段落から、イソギンチャクがクマノミに守られていることを読み取る ・この魚が近づいてくると(小さな魚) ・カチカチ ・おいはらってしまいます	・言葉や文を根拠にして、5段落のテレビに大きな魚、6段落のテレビに小さな魚を書き込ませ、クマノミ、イソギンチャクとの位置関係をつかませる ・5段落のテレビには、イソギンチャクをこわがって近づかない大きな魚と、安全に守られているクマノミの表情と言葉を考えさせ、目と吹き出しを書かせる ・6段落のテレビには、小さな魚を追い払うクマノミの表情と言葉を考えさせ、目と吹き出しを書かせる
	4 正しい読み取りを確認する (1) イソギンチャクとクマノミになって動作化をし、守り合っている様子を確認する (2) 動作化について、言葉や文と関連させて話し合う (3) 自分の読み取りを見直す	・読み取った、立つ位置(近づいてきません)、かかわり合いの順序(書かれている順序)、吹き出しの内容(こわがって、あんぜんです、食べにくる、カチカチ、おいはらって)に気をつけて動作化させ、話し合わせる ・自分のあたまのテレビを見直し、必要に応じて補足、修正させる
	5 本時のまとめをする (1) まとめを書く (2) 学習場面を音読する	・イソギンチャクとクマノミの守り合っている関係についてまとめを書かせる
終 末 (5)	6 本時の学習を振り返る	

8 指導展開案（6 / 11時間）

(1)目 標 ホンソメワケベラと大きな魚たちの、掃除をしてもらい、食べ物をもらっているという関係を読み取り、それぞれの立場から吹き出しを書くことができる。

(2)評価規準

評価場面	評価規準	具体の評価規準		Cの児童への支援
		A	B	
ホンソメワケベラと大きな魚たちのそれぞれの立場からの吹き出しを書く (イメージ構成シート)	ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取り、それぞれの立場からの吹き出しを書いている (読む)	Bの内容に加えて、自分の思いや考えも含めて吹き出しに記述している	言葉や文を根拠に掃除をしてもらうことと、食べ物をもらうことが分かる言葉を記述している	あたまのテレビの挿し絵を見直させ、言葉や文から確認させる

(3)展 開 (6 / 11時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (イメージ構成シートの活用)
導 入 (5)	1 本時の学習課題を確認する 生きものたち(ホンソメワケベラと大きな魚たち)の「かかわり合いはかせ」になるう。 ・写真から、ホンソメワケベラと大きな魚について書かれていることを確認する	
展 開 (35)	2 学習の見通しをもつ (1) 学習場面を音読する (2) 第8段落の言葉や文と写真から、場面の主要なものであるホンソメワケベラと大きな魚たちを確認する ・明るい青色の体 ・黒いすじ ・12センチメートルほど	・言葉や文と写真を関連させながら指し示し、場面の主役としてホンソメワケベラと大きな魚たちを確認させてから、書き込ませる
	3 ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取る (1) 8段落から、ホンソメワケベラが大きな魚にしていることを読み取る ・入っていく ・体や口の中についた虫 ・きれいにそうじしてくれるのを知っている (2) 9段落から、大きな魚がホンソメワケベラにしていることを読み取る ・そうじ魚 ・とった虫が、食べものになる	・8段落のテレビには、掃除をしてもらっている大きな魚の表情を考えさせ、目を書き込ませる ・食べものをもらっているホンソメワケベラと、きれいに掃除をしてもらっている大きな魚の目を書かせ、言葉を考えさせて吹き出しに書かせる
	4 正しい読み取りを確認する (1) ホンソメワケベラと大きな魚になって動作化し、かかわり合いの様子を再現する (2) 動作化について、言葉や文と関連させて話し合う (3) 自分の読み取りを見直す	・読み取った、位置関係(体や口の中に)、かかわり合いの順序(書かれている順序)、吹き出しの内容(入っていく、きれいにそうじしてくれるのを知っている、とった虫が食べものになる)に気をつけて動作化させ、話し合わせる ・自分のあたまのテレビを見直し、必要に応じて補足、修正させる
	5 本時のまとめをする (1) まとめを書く (2) 学習場面を音読する	・ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについてまとめを書かせる
終 末 (5)	6 本時の学習を振り返る	